

第1回総合振興計画等の策定に係る意見交換会 会議録【意見の要旨】

日時 令和3年9月24日(金)

午後1時30分～午後3時10分

場所 浜田まちづくりセンター(1階)研修室

[進行／政策企画課長]

意見交換 (午後2時10分～)	
岡本議員	自主防災について消防団と防災士に関する記載を計画の中に反映させた方が良いのではないかと。記載を見落とししているのであればご説明いただきたい。
消防長	消防団について106頁に記載している。ただ、消防団員確保を明確にどうするかについての記載はない。消防団員確保について詳しい記載が必要とこのことであれば項目を加えたい。
岡本議員	地域で募集して防災士を増やそうという動きがあると聞いているが、この点についての記載を検討いただきたい。
総務部長	防災士の育成については、浜田市が主体ということではなく、自主防災組織において自主的に取り組んでいるところである。そういった組織への積極的な支援について追記したい。
岡本議員	地域は避難場所の設定について悩んでいると聞く。そういった地域への指導が必要と考える。また、避難場所の整備という視点をしっかりと示していく必要がある。
総務部長	災害が多発する中、避難場所については市民の関心も高くなっている。この春配布した防災ハザードマップの普及も含め、避難場所の整備と確保は大きな課題と考えており、そういった取組については記載したい。
澁谷議員	この総合振興計画では、市民の声がどれほど反映しているのか。
地域政策部長	後期基本計画の策定にあたっては、市民委員会を設置し、市民の声を聞く場を設けた。これまで2回開催し、「どういった浜田市にしたいか」についてご意見をいただき、それを踏まえて今回の計画(案)を作成している。
澁谷議員	この計画(案)において、体感的に市民の意見をどれくらい取り入れたという認識なのか。
政策企画課長	いただいたご意見を各部署へ示し、意見を踏まえて計画(案)を作成してきた。また、計画の本文にある吹き出しについても市民委員会の意見から追加したもの。そういった点から事務局としては、7割程度は反映できたと思っている。
澁谷議員	総合振興計画審議会がこの計画の答申をすることになるが、この人たちがどこまで責任を持つのか。自分たちが作った計画は、一年ごとに検証しないといけないと思うが、その仕組みはどうなっているのか。
政策企画課長	前期基本計画を策定した時から、計画に携わっていただいた審議会の委員に、毎年、進捗管理ということで確認してもらい、評価や意見をいただいている。後期基本計画についても、今の総合振興計画審議会の皆さんに、この数値に対する進捗評価について、意見等を伺っていくこととしている。
澁谷議員	進捗評価の結果はどのような形で公表しているのか。
政策企画課長	審議会は附属機関となっているので、公開により開催している。その会議の結果についても、ホームページ等で掲載してお知らせするとともに、審議会の意見により修正が必要なものは、目標値等を踏まえて修正も行う

	ている。
澁谷議員	議会の全員協議会等で、総合振興計画の進捗管理に関する報告を聞いたことがない。
政策企画課長	毎年9月の全員協議会で、審議会の委員からのご意見を踏まえた毎年の進捗評価について報告させていただいている。 令和2年度の進捗評価については、29日の全員協議会で報告させて頂く予定としている。
澁谷議員	産業経済部門の「活力ある産業を育て雇用をつくるまち」という永遠のテーマのようなフレーズが前期基本計画から引き続き使われているが、目標がほとんど達成されていない状況の中、同じフレーズを使う理由は。
産業経済部長	前期基本計画で達成できなかった部分ではあるが、「活力ある産業を育て雇用をつくるまち」は、市長の重要施策の一つとして掲げている。 何としても再度推進していきたいという思いから、同じフレーズをもう一度使わせていただいた。
澁谷議員	市長の思いはわかったが、産業経済部長の思いは。
産業経済部長	「活力ある産業を育て雇用をつくるまち」については、市長と同様、最重要課題として取り組んでおり、後期基本計画においても目標達成に向けて努力していきたい。
西川議員	市民の声を取り入れるということで、市民委員会を開催し、その意見が8頁の下に図で示されている。この意見は施策に反映されるべきと考えるが、先ほどのあったとおり、この意見の7割が施策に反映されたものと考えとよいのか。
政策企画課長	今回の市民委員会でお話いただいたのは、具体的な施策ではなく、「どういった浜田を目指したらよいか」という思いを出していただき、計画の中に反映したいということで、グループワークを実施し意見をまとめてもらった。 8頁にある内容は、計画にある「現状と課題」や「主要施策」、「基本方針」の中で反映をさせている。 市民委員会の中で出た具体的な施策についても、この計画の中に取り込めるようにということで、対応させていただいたと思っている。
西川議員	前期の計画では、具体的な意見がどの施策に反映したかという一覧表があったが、今回は想いだけということか。
政策企画課長	前回の市民委員会では、第2次総合振興計画の基本構想から作るということで進めていただいたことから、大綱に繋がるものなど、少し具体的な案を出し、まとめていくというより詳細な所を作り上げてきた。 今回は、前回の市民委員会でまとめていただいた基本構想を踏襲し、さらに皆さんの意見で変えていかなければならないものは変えていきたいということで、「こんな浜田がいいなあ」といった所から、前期基本計画からどのように変えていくかといった視点で意見をいただきまとめたもの。 市民委員会で出た意見については、参加いただいた皆さんにその対応状況についてお示しさせていただいている。また、今後添付する資料編の中には、その対応状況についても記載していきたいと考えている。
西川議員	意見を聞くと学生は「家賃が高い」「交通が不便」「遊ぶ所がない」ということを必ず口にする。市民委員会の意見でも、このキーワードが含まれているが、市民委員会の出席者へは結果を伝えているとのことだが、その結果について納得しているのか。

政策企画課長	<p>家賃については市の施策だけでは解決が難しいため、計画の中で、「家賃が安い」といった意見に対する取組を具体的には表現できていないと思っている。</p> <p>こういった意見について、その結果に対するさらなる意見が戻ってくるのではないかと考えており、その戻ってきた意見の中で、どのように反映させていくかは検討していきたい。</p>
三浦議員	<p>市民の意見をどう反映したかがポイントだと思う。</p> <p>資料5の最初に、「テーマとしてつくるというものが多くみられている」とあり、「つくる」がキーワードとしてまとめの最初にきている。</p> <p>この「つくる」というキーワードを、どのように計画の中で取り扱ったのか。</p>
政策企画課長	<p>市民委員会の中で「つくる」という意見が多くなっているということで、計画全てを「つくる」というキーワードでまとめているわけではないが、例えば「ビジネスを作る」「地域をつくる」「新しい仕組みをつくる」といった点について、産業経済部門や地域振興部門の中で触れさせてもらっている。</p>
三浦議員	<p>「つくる」という言葉が大事なのではないかと市民が思っていることが、結果として出てきているのであれば、こういった部分を拾いあげ、キャッチコピーを付けてはどうかというのが先日の私の提案だった。</p> <p>「住みたい 住んでよかった 元気な浜田」というのは、江津に変えても大田に変えてもどこも目指すもの。それをどういう方向性で作っていくのかといったメッセージを、市民の意見を汲み取って作るというのが、計画の上に掲げるメッセージではないか。</p> <p>それを先日伝えたつもりだが、是非こういった思いを計画の中に汲み取っていただきたい。それぞれの部門で盛り込んでいるといっても、どのように計画の中に組み込まれたのかは、自分は少なくとも先ほどの計画（案）の中では、この「つくる」というメッセージがどこに入っているのかわからない。</p> <p>市民と一緒に作ったという一つのプロセスを大事にされるのであれば、このキーワードは前面に出して、計画と一緒に作ったということを共有することが大切だと思う。</p>
	(意見)
三浦議員	<p>66ページの「まちづくりセンターを拠点とした社会教育の推進」が掲げられているが、代表的な目標が「人権学習の実施回数」となっている。これが、協働のまちづくりを推進するために核となった、まちづくりセンターへの移行と社会教育の推進を図っていくためのKPIとしてふさわしいのか。</p>
地域政策部長	<p>議員がご指摘のとおり、この項目について、このKPIだけを取り上げて進捗を管理するというのは馴染まない。KPIについて、改めて整理させていただく。</p>
三浦議員	<p>ポストコロナが、浜田のまちづくりを進めていくうえで、自分たちではどうしようもできない社会情勢の一つだと思う。</p> <p>それを踏まえた時に、各地域の個別施策を見ると、「交流人口の拡大」を掲げているが、コロナ対策をどれ程意識してこの項目を掲げたのか。</p> <p>ポストコロナ社会の対応が前提としてある中、コロナに関する記載がそれぞれの項目に列挙されていないのは理解できるが、コロナの影響で人の行き来ができない状況の中、今後、それを乗り越えて、交流人口を進めていこうという意味合いで書かれているのか。</p> <p>どの程度、取り巻く情勢の変化をとらえた後期基本計画なのか。</p>

	<p>今後見直す中で、そういった部分をもっと意識した内容にすれば、分かりやすい計画になるのではないか。</p>
金城支所長	<p>金城地域は、「ポストコロナの新時代を見据えた」と記載しており、具体的には、オンラインのバスツアーなど今後も取り組んでいかなければならないと考えている。</p> <p>目的をもって大勢で観光する時代ではなくなっているため、コロナがなくても、そういった方向に向けて進めてきたおり、個人の観光を大切にしていこうという視点を今後もやっていきたいという内容で記載した。</p> <p>表現が弱く十分伝わらないということなので、文言を見直させていただく。</p>
旭支所長	<p>旭地域は、「交流人口の拡大」という形で前期に引き続きの目標として掲げている。</p> <p>内容について、アフターコロナに向けた具体的な部分は記載していないが、小規模な観光施設を売りにしていこうという地域の盛り上がりもある。</p> <p>この点についての表現が入っていないので、ご意見を踏まえて文言の見直しについて検討させていただく。</p>
弥栄支所長	<p>弥栄地域は、今年度もふるさと祭りなどを開催したが、コロナ禍ということで、オンラインをとおして、ケーブルテレビにも協力いただきながらの開催となった。今後もコロナの影響は続くことが予想されるので、交流人口の拡大の表現について、しっかり検討して修正させていただく。</p>
三隅支所長	<p>三隅地域は、目標について「交流」という視点は入っていないが、ポストコロナの対策は必要な視点なので、色んな活動の中でそういった点を考えながらやっていきたい。</p> <p>具体的には、石州和紙の情報発信について、普及活動などで人が動くということが難しくなっている。オンラインの活用など対策を取りながら進めていきたい。</p>
三浦議員	<p>今までも他の議員から指摘があるように、都市部との交流ができないのであれば、地域間の移動や施設の活用を促進させていく施策を考えようという考え方が継承される中で、そういった考え方もあってよい。</p> <p>そうすると、このような計画に、「これまでは都市部からの交流人口が何%だったところを、地域内の交流人口、例えば山陰地方といった近隣の人に利用してもらうことを掲げる」といった方針が打ち出されてもよいのではないかと。それが、ポストコロナを見据えた交流人口の拡大につながる。</p> <p>それが無い中で、今までと同じ手法でやり続けても、そういう思考のまま作られる事業には発展性がない。</p> <p>総合振興計画はマスタープランなので、社会構造の変化を踏まえた後期計画というのであれば、もう少しそういった視点を踏まえた意識を強く持って取り入れてもらいたい。</p>
	(意見)
芦谷議員	<p>自治区制度が見直され自治区は廃止された中、各地域の計画を残す必然性は何か。新市になり一体性を求める中、各地域の計画を残すことに疑問を感じる。</p>
政策企画課長	<p>自治区制度を見直し、協働のまちづくり推進条例を策定する際は、更なる一体的なまちづくりを目指すという方針を示している。</p> <p>一体的なまちづくりを進める中でも、個性豊かなまちづくりはこれまで同様進めていくこととしている。</p>

	<p>自治区別計画は前期基本計画から示したもので、今年度から自治区という名称は無くなっているが、10年を計画期間としている第2次総合振興計画の間は、個性あるまちづくりを進めていくにあたり、地域別というものは残した上で、地域の皆さんと一緒に進めていかなければならないという考えから、地域別の計画として名称を変えて残させてもらった。</p>
芦谷議員	<p>自治区制度の中で、個性あるまちづくりは、協働のまちづくりの先取りで、それぞれの地域の特色を活かすことだと思う。</p> <p>協働のまちづくりを進める中で、後期基本計画ではどういった点を打ち出していくのか。具体的な考え方や施策、市役所の体制などに考えがあるのか。</p>
地域政策部長	<p>4月の協働のまちづくり推進条例の施行を受けての後期基本計画となるため、その点をしっかり意識して作成してきた。</p> <p>3頁では、浜田市を取り巻く情勢の変化の中で「協働のまちづくりの推進」を掲げている。特に強く打ち出すという部分では、107頁以降の地域振興部門の中で、協働による持続可能なまちということを掲げ、協働による取組について目標を設定して取り組んでいくこととしている。</p> <p>また、計画全体についても、協働のまちづくりという視点も取り入れたものとなっている。</p>
佐々木議員	<p>市民の声をどの様に反映しているかが市民の関心、協力につながる。</p> <p>市民の意見を聞いて感じるのは、市民の生活が大変になっているということ。</p> <p>この計画の中で、様々な事業を展開し、まちづくりをしていくということも大事だが、市民の生活をいかに守っていくかという視点も大事になる。</p> <p>人口が半減するという推計が示されているが、そうならないよう生活維持という視点の色をもう少し出し、わかりやすい、市民に関心を持ってもらえる言葉にしていきたい。</p>
政策企画課長	<p>計画を作るにあたって、各種団体のヒアリングや審議会などにより、市民の意見を伺いながらまとめをさせていただいている。</p> <p>そういった市民の声については、反映できるものは反映したものと考えているが、もう少しそういった色をとということで、今後パブリックコメント等のご意見を含めて、必要なものについては調整させていただく。</p>
佐々木議員	<p>パブリックコメントでは、市民の悲痛な声は聞こえてこないもので、そのような意識をしっかりと持っていただきたい。</p>
	(意見)
西村議員	<p>小学生、中学生、高校生といった年代の声をどのようにして拾い、政策へ反映させるのか。こういった意見が地域協議会や学校から上がってくることが素晴らしい流れではないかと思った。</p> <p>その他にも色んな分野でいろいろな要望や思いがあるはずなので、その声をどういう形で市へ伝えてればよいか考える必要があるのではないか。</p>
教育長	<p>教育の魅力化ということで、コンソーシアムを立ち上げ、大学、高校、中学校の管理職の方に入っただき、まちづくりセンターと一緒に、どのように子どもたちの育ちを支援していくかを考えている。</p> <p>高校では、子どもたちがサポートを受けるだけでなく、地域に出て、子どもたちの姿を地域に見せることで元気になっていこうという考え方もあり、地域外活動に力を入れはじめた。</p> <p>さらに、この姿を中学生にも見せていきたいという思いもあり、こうした事</p>

	<p>業を進めていくことが大切だと考えている。</p> <p>校長会では、今後、まちづくりセンターがまちづくりの拠点となっていくので、授業の中で親子一緒に参加することを働きかけて欲しいと話をした。そこで見えてくるものに気づきがあると考えている。この気づきをどのように吸い上げるかについては、総合振興計画の中に表現することは難しいが、この計画を受けて、教育振興計画も作っていくので、その中で具体的な手法について整理していきたい。</p>
西村議員	<p>それぞれの立場で考えるべきだと思っているが、特に執行部にお願いしたいのは、地区まちづくり推進委員会に対し、子どもたちの意見、要望等について、どういう形にすれば、その声を市に届けることができるのかを議論してもらえよう問題提起していただきたい。</p>
政策企画課長	<p>140 頁にある広報広聴活動の充実の中で、子どもから大人まで多くの市民の意見や提言を的確に把握し、市政に反映する旨を記載している。</p> <p>個々の取組を進めていく中で、このような視点を踏まえて取り組んでいきたい。</p>